

令和元年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者の皆さんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。
この貴重な結果を大事にして、令和2年度に臨みたいと思います。

令和2年3月 ひしのみこども園 園長 千住由一郎

1. 園の保育と教育の目標

「子ども一人ひとりの主体的、創造的活動を促すとともに集団生活をとおして、思いやりの心や社会性を身につけさせ、生きる力の基礎を培う」

2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	逞しく
<ul style="list-style-type: none"> 感性豊かな子 協同して遊び互いに尊重する子 	<ul style="list-style-type: none"> 創造性豊かな子 知的的好奇心に満ちた子 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで運動する子 食事を楽しむことができる子

3. 保育と教育の方針

- 子どもが進んで身体を動かして遊びを楽しむような環境づくりをする。
- 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量に対する関心などの、知的発達を促す場づくりをする。
- 保護者と連携し、日常生活における基本的な生活習慣が身につくように努める。
- 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育てる。
- 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また自然の恵みに感謝する気持ちをもたせる。
- 意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身に付けさせる。
- 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
- 身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。

4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準	
A	職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が90以上	A	園の自己評価を納得できる
B	職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上	B	園の自己評価を大体納得できる
C	職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満	C	園の自己評価をあまり納得できない
		D	園の自己評価を納得できない

領域	評価の観点	自己評価		関係者評価	
運営の体制	1. 教育・保育への意欲	A	行事や遊びを通して、子ども一人一人の成長を感じることができた。職員もまた、指導の工夫に努めた。	A	園の評価に納得できます。
	2. 施設・設備の安全管理と有効活用	A	雨天時でもホールで元気いっぱい遊ぶなど、施設・設備の有効利用はできた。	A	安全面も十分な配慮をしてください。
	3. 危機管理	A	毎月の避難訓練・安全点検及び毎日の連絡会の申し送りによって、目標は達成している。	A	園の評価に納得できます。

	4. 職員への信頼性	A	気軽に相談できるような関係を引き続き築いていけるような努力をしていきたい。	A	更に園児の様子が保護者に伝わるように努めてください。
日 々 の 保 育	1. 道徳性の涵養	A	機会をとらえて、絵本や紙芝居等も教材として利用しながら、場面に応じた規範意識を高める指導を継続していきたい。	A	心に寄り添い、優しさを育ててもらっています。
	2. 生活習慣	A	基本的な生活習慣については、保護者との情報交換を密に行い、さらなる連携強化に努めたい。	A	園の評価に納得できます。
	3. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や感染症の情報提供、発育測定、健診の結果報告により、保護者の理解に努めている。	A	園の評価に納得できます。
	4. 遊びを通して	A	一人一人の発達に応じたかかわりを通して、興味関心、意欲を引き出し幼児期に必要な体験ができるよう努めている。	A	個に応じた指導をされています。
	5. 幼小の接続期指導	A	就学へ向けて、中央校との年2回の交流会や情報交換会を通してなめらかな接続ができるよう努めている。	A	情報交換の場を設定して指導に活かしています。
地 域 と の 連 携	1. 身近な人々とのかかわり	A	園行事への各種団体からの協力を得て、幅広い世代の人々と交流することが実現できている。	A	園の評価に納得できます。
	2. 食育の推進	A	偏食の克服や食事のマナーについては、家庭と情報交換をしながら取り組んでいきたい。	A	栽培した野菜を調理するなど、よい取組をしています。
	3. 生命に気付く環境	A	昆虫や小動物の飼育、野菜や草花の栽培などの体験を通して、自然とのかかわりを大切にできた。	A	園の評価に納得できます。
	4. 絵本との出会いと読書活動の啓発	A	毎日の読み聞かせで、絵本のおもしろさを引き出し、子どもが自分の世界を膨らませ、文字への興味にもつながっている。	A	未知の世界への入り口です。更に活動推進をしてください。
	5. 開かれたこども園	A	メール配信を利用して、行事や感染症の状況などを知らせてきた。今後も様々な情報発信も含め理解を深めていきたい。	A	更に情報発信に努めて下さい。

5. 関係者委員会のコメント

総合的な評価が「A」ですので、園の方針、進め方に問題はないと思います。自信を持って運営してください。

全般的にA評価として良く、全体的に素晴らしい運営、園児一人一人の個に応じた指導ができていると思います。

素晴らしい教育・保育を実践されていますので、本園の教育・保育活動の良さをいろいろな場面を使ってアピールしてください。

保護者との情報交換についても保護者の都合もあり難しい面もあるかと思いますが、今後も機会を見つけ、情報交換をしてください

家庭と情報共有しながら、一貫した指導ができるよう保護者に働きかけていくことが必要です。園と家庭が1つになって子どもの成長を見守ってください。

けがの多い遊具に関しては、どのような状況でけがをしているのかを調べたり、遊びのルールを決めたりして、安全に遊べるように安全面の向上を図ってください。

教職員の自己評価と保護者のアンケートの項目をそろえると、問題点や課題等も見つけやすいと思います。また、教職員の自己評価は別に設けると良いと思います。

教職員の自己評価では厳しい評価をする教職員もいますので、評価基準を設定すると、客観的な評価になります。

6. 総合評価と次年度への課題

今年度は、新しい教育・保育要領がスタートして2年目となります。自発的な遊びを通した様々な体験を行う「子ども中心の教育・保育」を行い、子ども一人一人の成長や発達を促すことに努めて参りました。また、令和元年10月より「幼児教育の無償化」が始まり、乳幼児教育の質の向上が問われはじめてきました。そのような中、評価の結果は、全項目でAと自己評価し、外部の関係者評価委員の方からも、A(園の自己評価を納得できる)との評価をいただきました。これは園の方針を保護者と職員が共通理解し、園での教育・保育活動に対して信頼されていると考えます。しかし、保護者の自由記述や自己評価の分析から、改善すべき点が出てきましたので、来年度はできる事から改善していきたいと考えております。

本園は新制度の認定こども園となり4年目となりますが、今年度も全国的に新制度へ移行する園が多く、佐賀県内でも保育教諭や臨時の保育士の不足が続いています。しかし、常勤職員・非常勤職員も含め全職員一体となり、知恵をしばり現状の打開を図ってきました。

今年度は、新幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容に対応した全体的な計画・指導計画の見直し、及び「言葉」領域の研究を通して、幼児教育の向上に努めてきました。

次年度においては、令和3年11月に「第70回九州地方放送教育研究大会・佐賀大会」幼稚園部会の公開保育をすることになりましたので、放送教育による教育・保育の研究も行います。また、園内研修では「言葉」領域の研究が3年目となり、更なる研究の深化・拡充をすすめて参ります。そして、「やさしく、かしこく、たくましい」ひしのみの子どもの成長を願って、「情報共有」と「コミュニケーション」をキーワードに様々な工夫を行い、課題解決を図っていきたく考えています。